

## Y11b 天文学は私たちの文化、最新天文学の普及をめざすワークショップの活動

大西浩次(長野高専)、本間隆幸(府中市郷土の森博物館)、根本しおみ(国立天文台)、波田野聡美(国立天文台)、豊増伸治(豊橋市視聴覚教育センター)、塚田 健(平塚市博物館)、永井智哉(筑波大学計算科学研究センター)

科学教育に携わる人が、最先端の科学を学ぶことは、科学教育普及活動で重要な意味を持つ。しかし、科学教育や天文教育の現場に携わる人々が系統的に学習する機会は極めて限られている。そこで、「最新の天文学の普及をめざす会」では、2004年から毎年、天文教育に携わる人々と研究者との連携による最新天文学のワークショップを開催してきた。最近の例では、電波天文学最前線、アストロバイオロジー、重力波天文学などをテーマとした。

このようなワークショップを通じて、天文学を伝える科学コミュニケーターに最新の天文学の成果を学ぶ機会を提供すると共に、科学コミュニケーターと研究者との交流や共同作業などを通じて、天文教育普及活動や研究者のアウトリーチの手法の向上をはかってきた。このような活動の具体的な成果として、複数のプラネタリウムの番組の制作や、展示企画、講演会の実施などが挙げられる。

2017年の第13回では「シミュレーション天文学」をテーマとし、牧野淳一郎(神戸大/理研 AICS)、堀田英之(千葉大)、小南淳子(東工大)、木内建太(京大)、大須賀健(国立天文台)、吉田直紀(東大/IPMU)の皆さんを講師として、講義と共に、グループワークや交流会、スーパーコンピュータ「京」の見学などを行なった。

この様な活動を通じて、ひとつに天文教育普及に携わる人々のためのワークショップであると同時に、最前線の研究者の皆さんも「天文学の素晴らしさを伝える力」を磨く機会にもなり、天文学の文化を育てるための有効な手段と考える。今後の継続的な運営に協力をお願いしたい。